

かんげんじょうせいかい か
管絃丈清会歌

石橋 令 邑 作詞
加羅古呂庵 一泉 作曲

2024. 8.12 作曲

歌(男声)

尺八I

尺八II

箏I

箏II

十七絃

1尺8寸管

口 ピ

1尺8寸管

口 ピ

花雲調子

三 二 三 五 七 九 斗 為 巾

花雲調子

三 二 三 五 七 九 斗 為 巾

二 三 五 七 九 1 3 5 7

運指、奏法については、適宜工夫していただいでけっこうです。

管絃丈清会歌

「尺八丈清会歌」(1995年)は、歌に尺八3パートで伴奏する形式でしたが、鯉江丈山師のご依頼により、箏・十七絃を加え、尺八は2パートにして、「管絃丈清会歌」としました。作詞は、「高麗の春」などの詩を作られた石橋令邑氏です。

あおによし 奈良の都に 渡りきし
 もろこしの 笛 代ををへては
 善化尺八と 時をすぎ
 古今にわたる 日本の竹韻
 都山・茶山の 伝統の
 芸風うけし 丈山は
 竹道の標 かえりみて
 楽の基は 本曲と
 古曲・新曲・現代曲
 糸竹の道 きわめあい
 指南の灯 消ゆることなく
 会員の 結び和をもて いやかたく
 求道の波路 洋洋と
 丈清会の 邦楽ぞ
 国の内外に ひびきわたらん
 時をかぎらで ひびきわたらん

©1991 石橋令邑

(注) 縦譜(箏・十七絃譜)では、歌を箏(花雲調子)で記しています。縦譜では、他の楽器のパートを補助的に記載しています。ただし、複数のパートを集約し、オクターブも変えているところがあります。正確には、五線譜(スコア)をご参照ください。

加羅古呂庵ホームページ



13				9					
一	九十	四	ハ	よ九	八	九	mf七	ハ	あ九
二	△九	五	ハ	を十	九			ハ	お十
四	八	>	ハ	ハ	九	十	ハ	ハ	に>
六	八九	六七	ハ	テ九	六	八	△五	ハ	よ>
○	升	八	ハ	ハ	六	五	五三	ハ	しハ
○	升十	八七	ハ	○	六	八		ハ	○
○	十九	七七	ハ	ハ	九	十	四五	ハ	ハ
○	八	五	ハ	ハ	九	十	>	ハ	ハ
二	七八	二	ハ	ハ	九	十	ハ	ハ	ハ
三	>	三	ハ	ハ	九	十	ハ	ハ	ハ
>	八	三	ハ	ハ	九	十	△三四五六七	ハ	ハ
九	八	五六	ハ	ハ	九	十	>	ハ	ハ
一五	七八	七	ハ	ハ	六	八	五	ハ	ハ
○	>	八九	ハ	ハ	六	八	五	ハ	ハ
二	五	八	ハ	ハ	六	八	九	ハ	ハ
四	六	>	ハ	ハ	六	八	九	ハ	ハ
>	>	>	ハ	ハ	六	八	九	ハ	ハ

管絃丈清会歌 (2)

5				十七絃 箏 Ⅱ 箏				尺八 歌 (男声)							
二	九	四	八	二	九	三	八	二	九	三	八	二	九	三	八
六	五	八	九	六	五	八	九	六	五	八	九	六	五	八	九
八	四	五	九	八	四	五	九	八	四	五	九	八	四	五	九
五	五	五	七	五	五	五	七	五	五	五	七	五	五	五	七
二	一	五	二	二	一	五	二	二	一	五	二	二	一	五	二
六	三	八	六	六	三	八	六	六	三	八	六	六	三	八	六
八	四	五	九	八	四	五	九	八	四	五	九	八	四	五	九
九	>	>	九	九	>	>	九	九	>	>	九	九	>	>	九
二	九	三	八	二	九	三	八	二	九	三	八	二	九	三	八
六	五	八	九	六	五	八	九	六	五	八	九	六	五	八	九
八	四	五	九	八	四	五	九	八	四	五	九	八	四	五	九
九	五	五	七	九	五	五	七	九	五	五	七	九	五	五	七
二	三	五	二	二	三	五	二	二	三	五	二	二	三	五	二
六	五	八	六	六	五	八	六	六	五	八	六	六	五	八	六
八	四	五	九	八	四	五	九	八	四	五	九	八	四	五	九
九	五	五	七	九	五	五	七	九	五	五	七	九	五	五	七
二	三	五	二	二	三	五	二	二	三	五	二	二	三	五	二
六	五	八	六	六	五	八	六	六	五	八	六	六	五	八	六
八	四	五	九	八	四	五	九	八	四	五	九	八	四	五	九
九	五	五	七	九	五	五	七	九	五	五	七	九	五	五	七

管絃丈清会歌 (1)

管絃丈清会歌

石橋令邑 作詞
加羅古呂庵 一泉 作曲

